

2024年（令和六年） 8月30日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

当週(8月22日～28日)の国際石油市場は、前週同様、前半は、イスラエルとハマスの停戦交渉難航観測・レバノンのヒズボラによるイスラエル攻撃など中東情勢、また、リビアにおける石油出荷停止発表に伴うリビア情勢の緊張激化、米国の堅調な経済指標の発表・利下げ観測の高まり等で、上昇傾向であったが、後半は、高値警戒感、利益確定売りの動きもあり、反落した。

NYのWTI原油先物市場は、22日、5営業日ぶり反発の73.01ドルで始まり、3営業日続伸の26日には77.42ドルを付けたが、その後続落、28日、74.52ドルで終わった。

また、中東産ドバイ原油/東京市場(10月渡し)も、前週・前々週(8月8日～21日)76.50～80.10ドルの範囲で推移したが、当週は、8月22日76.40ドル、23日76.90ドル、26日78.20ドル、27日78.40ドル、28日77.70ドル、と推移した。

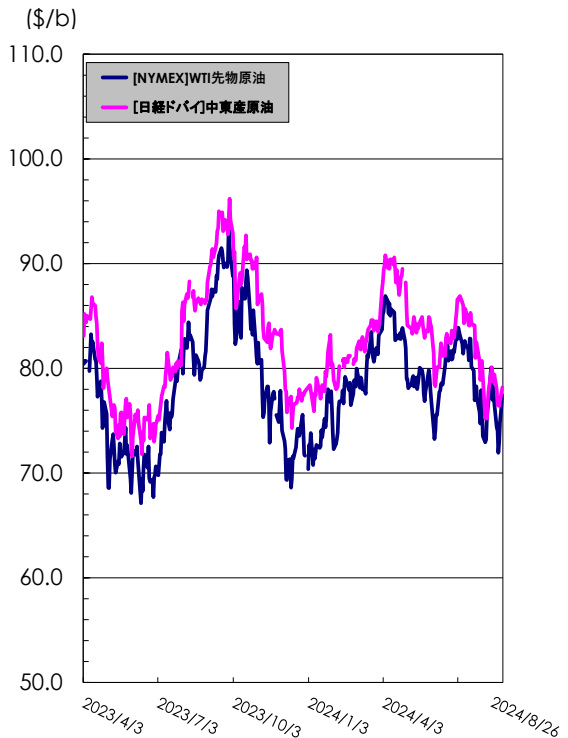
対ドル為替レート(TTM)は前週・前々週(8月8日～21日)145.60～149.13円の範囲で推移したが、当週は、8月22日145.41円、23日146.27円、26日143.56円、27日144.86円、

28日144.27円となった。

財務省が8月29日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、8月上旬の原油輸入平均CIF価格85,875円で前旬比1,997円安、ドル建て87.48ドルで前旬比0.11ドル安、為替レートは1ドル/156.07円。

そのような中で、8月26日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比横ばい、軽油も同横ばい、灯油も同横ばい(18リットルベース)、ガソリンの全国平均価格は174.5円となった。8月29日～9月4日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は16.6円(補助金がない場合の次週予想価格191.4円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は6.4円)となった。

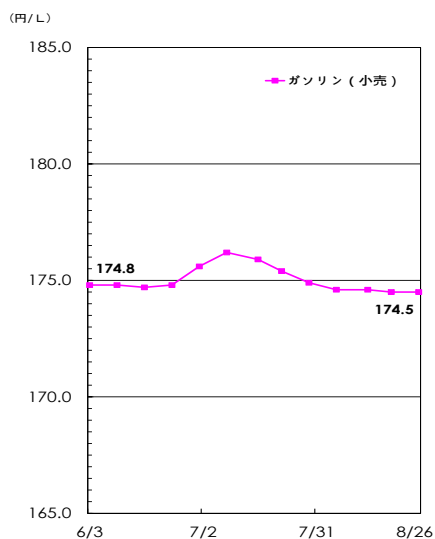
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	8/18～8/24	2,595 ▲134	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	75.0 ▲3.9	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	8/24	10,998 ▲1,134	▼ -
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	8/26	78.20 ▲0.20	▼ -8.2
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	8/26	77.42 ▲3.05	▼ -2.7
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月上旬	87.48 ▼0.11	▲ 5.32
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	85,875 ▼1,997	▲ 12,306
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	156.07 ▲3.41	▼ -13.71
	外国為替TTSレート (¥/\$)	8/26	144.56 ▲4.37	▲ 2.99



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	8/18 ~ 8/24	793 ▼ -137	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	734 ▼ -233	▲ -
	輸出	"	0 ▼ -49	▼ -
	在庫	8/24	1,405 ▲ 59	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 8/20 ~ 8/26	81.0 ➡ 0.0	▼ -4.0
		(TOCOM/中部) 8/26	80.0 ▲ 1.0	▼ -11.5
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 8/26	174.5 ➡ 0.0	▼ -11.1

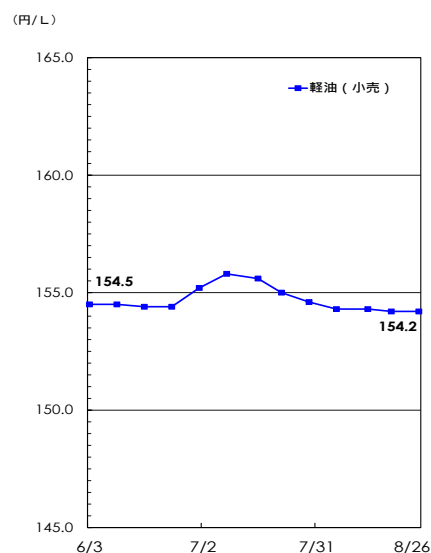
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

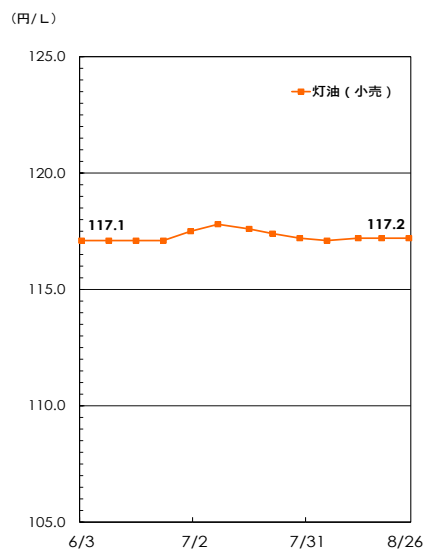
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	8/18 ~ 8/24	673 ▲ 209	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	535 ▲ 316	▼ -
	輸出	"	116 ▲ 41	▼ -
	在庫	8/24	1,478 ▲ 22	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 8/20 ~ 8/26	80.7 ▼ -0.7	▼ -12.7
		(TOCOM/中部) 8/26	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 8/26	154.2 ➡ 0.0	▼ -10.9

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	8/18 ~ 8/24	158 ▲ 83	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	51 ▲ 15	▼ -
	輸出	"	15 ▼ -9	▼ -
	在庫	8/24	1,898 ▲ 92	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 8/20 ~ 8/26	80.0 ➡ 0.0	▼ -4.0
		(TOCOM/中部) 8/26	79.0 ▼ -1.0	▼ -11.2
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 8/26	117.2 ➡ 0.0	▼ -6.8



■ 関連情報

1 海外/原油 (WTI原油先物市場)

前週・前々週(8/8~8/21)のNYMEX・WTI先物市場は71.93~80.06ドルの範囲で推移した。

当週、8月22日は、前日7か月ぶりの安値を受けた安値拾いの買いが先行、5営業日ぶりに反発した。また、前日発表の米国在庫統計の予想を上回る取り崩し、米国利下げの実施観測の高まりも、値上がり要因となった。10月物終値は前日比1.08ドル高の73.01ドル。

週末23日は、米国連邦準備制度理事会(FRB)のパウエル議長が、ジャクソンホール金融会議で講演、9月の金利引き下げを事実上確認、景気回復期待の高まりから、続伸した。イスラエル・ハマスの停戦交渉の難航報道も、値上がり要因。10月物終値は同1.82ドル高の74.83ドル。

週明け26日は、ハマスが、イスラエルと交渉中の停戦案を拒否すると発表、レバノンの武装組織ヒズボラも司令官殺害の報復としてイスラエル北部・ゴラン高原占領地にロケット・ミサイル攻撃を行い、緊張は激化、加えて、東西政府に分裂、内戦中のリビアでは、東部政府が石油出荷の停止を

発表、最大100万BDの生産停止も予想されることから、3営業日続伸した。10月物終値は同2.59ドル高の77.42ドル。

27日は、中東情勢・リビア情勢の緊張が高まる中、昨日までの続伸で、利益確定売りが多く、高値警戒感も出て、さらに、米国経済の先行き懸念を示す向きもあり、4営業日ぶりに反落した。10月物終値は、同1.89ドル安の75.53ドル。

28日は、米国国内原油在庫が前週比取り崩しだったものの、予想を下回り、期待ほど伸びず、加えて、中国景気に対する懸念、為替市場におけるドル高進行に伴う割高感もあり、続落した。なお、中東・リビアにおける緊張は、下値を支えた。10月物終値は、同1.01ドル安の74.52ドル。

2 海外/米国石油市場

8月28日発表の23日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、原油は前週比80万バレル減と市場予想(同230万バレル減)を下回る2週連続の取り崩しで、ガソリン在庫も同220万バレル減(市場予想同160万バレル減)、中間留分も同30万バレル増(市場予想同110万バレル減)と、需要の伸びに対する警戒感も出た模様。

EIAによると8月26日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比6.9セント安の1ガロン3.313ドル(126.4円/ℓ)と4週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比3.7セント安の1ガロン3.651ドル(139.3円/ℓ)と7週連続の値下がり。

ペーカーヒューズ社によると、8月23日時点で、米国内の

稼働陸上石油掘削装置は、前週比横ばいの483基となった。

3 国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年8月18日~8月24日に休止したトッパー能力は44.5万バレル/日で、前週に対して16.6万バレル/日減少した(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は259.5万klと、前週に比べ13.4万kl増加。前年に対しては45.4万klの減少。トッパー稼働率は75.0%と前週に対して3.9ポイントの増加、前年に対しては7.3ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油、軽油、A重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/14.8%減、ジェット/59.2%減、灯油/112.1%増、軽油/44.9%増、A重油/3.5%増、C重油/25.8%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比横ばい)。軽油の輸出は11.6万kl(前週比4.1万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてガソリンが減少し、その他の油種で増加した。前年比ではガソリン、ジェットが増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は73.4万kl(対前週24.1%減)と6週振りに減少した。ジェット10.1万kl(対前週18.0%増)、灯油5.1万kl(対前週41.9%増)、軽油53.5万kl(対前週144.4%増)、A重油15.9万kl(対前週

168.6%増)、C重油11.5万kl(対前週11.9%増)。

(単位:千kl)

	今週 (8/18 ~ 8/24)	前週 (8/11 ~ 8/17)	前週比
ガソリン	734	967	▼ -233 (-24%)
ジェット燃料	101	86	▲ 15 (17%)
灯油	51	36	▲ 15 (42%)
軽油	535	219	▲ 316 (144%)
A重油	159	59	▲ 100 (169%)
C重油	115	102	▲ 13 (13%)
合計	1,695	1,469	▲ 226 (15%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

4 国内/製品在庫量

8月24日時点の在庫は、ガソリン、灯油、軽油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては軽油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは140.5万kl、前週差5.9万kl増。前年に対しては7.6万kl少ない。

灯油は189.8万kl、前週差9.2万kl増。前年に対しては29.1万kl少ない。

軽油は147.8万kl、前週差2.2万kl増。前年に対しては6.3万kl多い。

A重油は69.7万kl、前週差2.1万kl減。前年に対しては5.8万kl少ない。

C重油は171.4万kl、前週差6.7万kl減。前年に対しては34.7万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (8/24)	前週 (8/17)	前週比
ガソリン	1,405	1,346	▲ 59 (4%)
ジェット燃料	708	827	▼ -119 (-14%)
灯油	1,898	1,806	▲ 92 (5%)
軽油	1,478	1,456	▲ 22 (2%)
A重油	697	718	▼ -21 (-3%)
C重油	1,714	1,781	▼ -67 (-4%)
合計	7,900	7,934	▼ -34 (-0.4%)

5 国内/元売会社製品卸価格

8月20日～26日のドル建て中東原油価格は値下がり、為替レートも円高で、円建て輸入原油価格は値下がりし、また、中東原油の8月分調整金の値下がりもあり、元売会社の卸建値は値下げしたものが見られる。補助金の減額幅はこれを下回ったことから、8/29～9/4の実質卸価格は値下がりとなる模様。

6 国内/製品小売価格

8月26日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比横ばいの174.5円、軽油も同横ばいの154.2円、灯油も18%ベースで同横ばいの2,109円(1%ベースでも同横ばいの117.2円)。ガソリンは2週ぶりに値下がりが止まり、軽油も2週ぶりに値下がりが止まり、灯油は2週連続で横ばいだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが22都府県、横ばいは3県、値下がりは22道府県だった。全国最安値は岩手県の167.7円、その次は愛知県の168.2円であった。他方、最高値は長野県の182.4円。最も値上がりしたのは宮城県(同1.3円高)、最も値下がりは福島の1.0円安であった。次回

調査時(9/2)のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (8/26)	前週 (8/19)	前週比	直近高値
レギュラー	174.5	174.5	➡ 0.0	23/9/4 186.5
灯油	117.2	117.2	➡ 0.0	08/8/11 132.1
軽油	154.2	154.2	➡ 0.0	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2024第21号) の公表は、9/6 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。